

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 3年次の進級論文優秀者に対する「小島賞」、卒業論文優秀者に対する「安保賞」への応募者数を倍増する。	→各賞への応募者数。	D	D	/	/	/
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 学生の学びへの動機を高めるための教育方法として、「小島賞」「安保賞」の効果的運用をはかっている。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 (説明) 専任教員が少人数教育を通し学位にふさわしい卒業論文執筆を通年で指導している。また教育課程の修了要件を満たしていることを確認の上、教授会で学位授与の可否を厳正に審査している。
その他	

《評価指標データ》

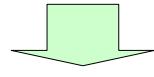
各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGP Sの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

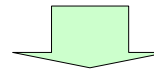
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	小島賞、安保賞への応募者数を増加するには、初年次からのアカデミックスキル教育のレベルアップと徹底が不可欠であり、基礎教育での語学、コンピュータ、アカデミックスキルを体系的に連動させて学ぶカリキュラム連動が必要
★小項目6.4.2	学位認定は厳密に行っているが、論文のレベル全体を上げるには、研究成果の報告や論文発表会のような口頭発表の機会を増やす必要がある。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	アカデミックスキルを学ぶ基礎演習のカリキュラムを情報教育や語学教育の内容とスケジュール調整という視点から見直し、カリキュラム連動を通して、繰り返しトレーニングする機会を設けるように体系化する
★小項目6.4.2	卒業論文提出前に行われるリサーチフェアでの口頭発表で事前審査を導入し、一定レベルの研究を奨励し、質疑応答を通し研究を進展させる機会を増やす。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	小島賞・安保賞で優秀な学生を奨励すると同時に、学生同士が切磋琢磨する雰囲気を醸成するためにリサーチフェアでの事前審査や共同ゼミなどの試みを通して、指導教員以外からアドバイスをもらえる機会を増やす。
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「改善すべき事項」6.4.1として挙げられているのが、この「教育成果」という小項目の眼目です。「教育目標に照らして、期待に沿った人材養成ができていないか」という観点から、不断に3ポリシーを検証していく姿勢が望まれます。

○大項目6全体にいえることですが、意欲的な努力がなされていると評価できます。「目標」を適切な項目に配置するよう、検討が望まれます。

【学内委員】

○「小島賞」および「安保賞」の効果的運用が企図され、そのために、初年次からのアカデミックスキル教育のレベルアップと徹底が行われようとしていることは評価できます。そのことにより教育の質の向上が実現されることが期待されます。

○総合政策学部の特徴を出すためにも、初年次からのアカデミックスキル教育のレベルアップと徹底、基礎教育での語学、コンピュータ、アカデミックスキルを体系的に連動させる必要があります。

○要素や大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明が求められます。本説明では不十分です。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★学生の学習成果を測定するための評価指標としてGPAや入学後のTOEFLスコアの変化など継続的に統計データを収集し、教育カリキュラムに反映させている、という点の記述を追加します。またディプロマポリシーとして今年度制定し、これをホームページ等で公開する、という記述を追加します。